

2026年度 夏季 千葉YMCA 環境・野外教育研究所 キャンプ 報告書



ごあいさつ

千葉 YMCA Summer Camp 2026 へご参加いただき、ありがとうございました。

この夏も皆様のご理解を賜り、多くの参加者とともにキャンプを開催することができました。途中で千葉豪雨の影響を受けたキャンプもございましたが、大きな事故や怪我もなく無事に終了できましたことをまずご報告申し上げ、心より感謝申し上げます。

YMCA のキャンプは「気づき」と「チャレンジ」を大きなテーマに掲げ、「安全」と「楽しい」を中心に据えて計画・実施しております。この夏の各キャンプにおきましても、対象・期間・行き先を考慮しながらそれぞれの目標やテーマを設定し、安全で楽しい環境の中でそれらが効果的に達成できるよう、様々な配慮や工夫を重ねてまいりました。

また、トレーニングを受けた大学生を中心とするボランティアリーダーが、子どもたちと生活をともにいたしました。事前にキャンプディレクターを中心に準備会（リーダー会）を重ね、参加者一人ひとりを大切にすること、そしてキャンプの特色やねらいが子どもたちに伝わるようお願いを込めて準備し、心に残る時間となるよう実施いたしました。

キャンプでは、小集団での生活や活動を基本としています。異なる個性が集まる中で一人ひとりを尊重し、仲間と「ともに生きていくことの大切さ」や、自己・他者に対する新しい「発見」を促進できるよう取り組んでまいりました。

「はじめのいっぽキャンプ」（1泊2日・年少～小学1年）は千葉市少年自然の家で実施し、施設探検やザリガニ捕り、水鉄砲づくりを楽しみました。「Y キッズキャンプ」（2泊3日・小学1～6年）も同施設にて、木のペンダントづくりやクライミング（3m・6m・9m の壁）、竹の水鉄砲づくり、火起こししてマシュマロを焼いて食べるスモアーズ、室内での歌やゲームなど盛りだくさんの内容で過ごしました。

「さしまあそびの森」（2泊3日・年長～小学6年）はさしま少年自然の家で実施し、流しそうめん、ボードコールづくり、ドラム缶風呂、キャンプファイヤー、ドジョウのつかみ捕りなどを体験し、カブトムシやクワガタとの出会いもありました。「岬の大冒険キャンプ」（3泊4日・小学1年～5年）は大房岬自然の家で実施し、磯遊びやカニ捕りなど海辺ならではのプログラムや野外炊飯を楽しみました。なお、本キャンプは移動に公共交通機関を利用していたため、千葉豪雨による内房線の運休に伴い、やむを得ず1泊延長して実施いたしました。「ほしふる 5Days Camp」（4泊5日・小学1年～中学3年）では、田舎の小さな小学校をリノベーションした木造校舎を拠点に、川遊び、鮎のつかみ捕り、BBQ、夏祭りの企画運営、キャンドルファイヤーなど充実した5日間を過ごしました。

それぞれのキャンプ地の特性を生かしたプログラムのほか、グループの仲間と過ごす時間を大切にすることで、キャンパー同士の深いつながりを育むことができました。それぞれのキャンプの報告は担当ディレクターの報告をご覧ください。

今年の夏、たくさんの「夢」と「願い」を込めて実施したキャンプが、お子さま方にとって「大切な思い出」となり、豊かな経験の機会となっていれば幸いです。多くの方々にお支えいただき、無事に終了できましたことに改めて感謝申し上げ、ご報告といたします。

一般財団法人 千葉YMCA
環境・野外教育研究所所長
山添 仰

キャンプ名：はじめのいっぽキャンプ～小さな挑戦が自信につながる 2 日間～

日程：2026 年 7 月 20 日（月・祝）～7 月 21 日（火）

場所：千葉市少年自然の家

参加対象：年少～小学 1 年生

運営体制：キャンプディレクター 松原 奈美（まっつーリーダー）
プログラムリーダー 古川 花乃（ぼぼリーダー）
グループリーダー 黒田 晃正（くろろリーダー）
平山 華（ころもリーダー）※OG

タイムテーブル：

時間/日付	1 日目	2 日目
午前	千葉駅集合（オプション送迎） 現地集合	朝食 竹の水鉄砲作り 水遊び
午後	昼食 オリエンテーション 探検 ザリガニ釣り	昼食 自由時間 振り返り 現地解散 千葉駅解散（オプション送迎）
夜	夕食 キャンプファイヤー	

ディレクター報告：

このたびは、千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催「はじめのいっぽキャンプ」にご参加いただき、誠にありがとうございました。本キャンプには、毎年「はじめてパパやママと離れてお泊まりをする」お友だちが多く参加されます。今年度も、多くのお友だちが初めてのお泊まりに挑戦しました。初めての体験にドキドキしたのはもちろん、大切なお子さまを 2 日間のキャンプに送り出していただき、そっと背中を押してくださったことに、心より感謝申し上げます。ケガや事故もなく無事にプログラムを終えることができましたことをご報告させていただきます。

1 日目は千葉駅に集合した後、電車とバスで 1 時間程かけて「千葉市少年自然の家」へ向かいました。電車やバスの中は初めて会うお友だちが多くドキドキしているお友だちがたくさんいましたが、リーダーとお話をしているうちに子どもたち同士での会話が増えていきました。千葉市少年自然の家に到着し、現地集合のお友たちとも合流してキャンプがスタートしました。まず、広いお部屋に集まり施設の使い方や

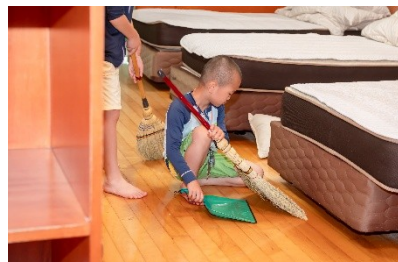


約束を確認し、みんなと一緒に泊りするリーダーの紹介をしました。昼食は食堂へ移動し、キャンプで最初の食事です。バイキング形式で、子どもたちは自分の食べたいものを選びながら、お皿に盛り付けていきました。幼児のお友だちは、リーダーと一緒に食べられるものを選びました。グループのみんなで「いただきます！」をして、昼食のスタートです。初めて会ったお友だちやリーダーとの食事に、楽しい雰囲気の中で食事を楽しむことができました。食事の後は、宿泊するお部屋がある 3 階へ大きな荷物を持って移動しました。3 階までは階段での移動です。「リーダー、ちょっとこれ持って～！」「重すぎる～！」という声も聞こえてきましたが、一人ひとり自分の荷物を頑張って運び、無事にお部屋までたどり

着くことができました。お部屋に到着した後は、施設探検とザリガニ釣りに向けて準備をします。この日は気温が高かったため、まずは宿泊棟の中で自分の名札や、隠された虫のイラストを探す活動を行いました。「あった!」「ここにもいるよ!」と、子どもたちは楽しそうに宿泊棟の中を探していました。その後、少し気温が落ち着いてきたところで、外へ探検とザリガニ釣りに出発です。道中では、アリの行列を見つけて立ち止まり、セミの抜け殻を見つけてお友だちやリーダーに嬉しそうに見せたりする姿が見られました。「ここにもあるよ!」とお友だち同士で教え合うなど、子どもたちは身近な自然に興味を持ちながら、お散歩を楽しんでいました。田んぼに到着すると、いよいよザリガニ釣りに挑戦です。最初はなかなか釣れず、じっと様子を見ながら待つお友だちもいましたが、少し時間が経つと「釣れた〜!」と喜ぶ声が聞こえてきました。釣れたザリガニをお友だち同士で見せ合うなど、夢中になってザリガニ釣りを楽しむ姿が見られました。宿泊棟に戻って少し休憩を取り、お風呂の時間です。子どもたちは大きな浴槽を見ると大興奮! お友だちやリーダーと一緒にお風呂の時間を楽しんでいました。お風呂の後は、食堂へ移動して夕食です。みんなで「いただきます!」をして食事が始まると、お友だちやリーダーと今日の出来事を話しながら、楽しそうに食べる姿が見られました。朝から移動やさまざまな活動を楽しみ、たくさん体を動かしたこともあり、中には少し眠そうな表情を見せるお友だちもいました。夕食後は、楽しみにしていたキャンプファイヤーです。みんなで大きな火を囲みながら、キャンプソングを歌ったり、さまざまなレクリエーションを楽しみ、元気いっぱいの声がキャンプ場いっぱいに響き、楽しい時間となりました。キャンプファイヤーが終わると、自分たちの部屋に戻って就寝の準備です。歯みがきや着替えなど、それぞれ身の回りのことを済ませた後は、グループのみんなで1日の振り返りを行いました。「今日楽しかったこと」や「頑張ったこと」などを思い出しながら、お友だちやリーダーと1日を振り返りました。そして、ふかふかのベッドに入って就寝です。初めてパパママと離れてお泊まりをするお友だちもいる中、さまざまな活動に挑戦し、たくさんの経験をした1日目となりました。朝からたくさん体を動かした子どもたちは、布団に入ると少しずつ静かになり、翌日の活動を楽しみにしながら、ぐっすりと眠りにつきました。



2日目は、荷物整理とお部屋の片付けからスタートしました。子どもたちはリーダーと協力しながら、布団をたたんだり、床にモップをかけたりと、自分たちが使ったお部屋をきれいにしていきました。片付けを終えた後は食堂へ移動し、朝食の時間です。朝食をしっかりと食べて、2日目の活動に向けて元気を蓄えました。朝食後は、竹を使った水鉄砲作りに挑戦です。どんな水鉄砲ができるのか楽しみにしながら、活動場所へ移動しました。リーダーに手伝ってもらいながら、オリジナルの水鉄砲を仕上げていきました。試し打ちをして水が勢いよく飛び出すと、子どもたちからは「水でた〜!」と嬉しそうな声が聞こえ、その後はマッキーでお絵描きをして、水鉄砲が完成しました。リーダーが体につけているイラストを狙って水遊びがスタート。自分で作った水鉄砲



を持ってリーダーを夢中で狙います。途中休憩をはさんだ後は、水風船の登場です。約 100 個の水風船が目の前に現れると、子どもたちは「わあ〜、たくさんある〜！！」と大興奮！水風船を手に取り、2 回戦目の水遊びがスタートしました。勢いよく投げ合いながら走り回る姿、命中してびしょ濡れになっても大笑いする姿があちこちで見られ、元気いっぱいの声が響き渡る楽しい時間となりました。みんなでお片付けをしてお揃いのキャンプ T シャツに着替えしました。その後の昼食は、みんなでお弁当を食べました。昼食後は、2 日間のキャンプで歌ったキャンプソングをみんなで歌い、楽しかった活動を振り返りながら、いよいよ解散の時間を迎えました。現地解散のお友だちはリーダーと一緒に解散場所へ移動し、オプション送迎のお友だちはトイレ休憩を済ませ、荷物を確認してからバス停へ向かう準備をしました。準備を終えた後はリーダーと合流し、 みんなでバス停へ移動しました。バスに乗り込み、茂原駅に向けて出発すると、たくさん遊んだ疲れも あったのか、バスに乗って 5 分も経たないうちに、ほとんどのお友だちが夢の中へ。2 日間、思いきり活動を楽しんだことが伝わってくるようでした。茂原駅に到着し、眠い目をこすりながら電車に乗り換え、千葉駅に向かいました。電車に乗る頃にはすっかりとした表情を見せるお友だちも多く、「楽しかったこと」や「頑張ったこと」など、キャンプでの思い出をリーダーにたくさん教えてくれました。千葉駅に到着すると、待っていたお父さんやお母さんの姿を見つけ、「ただいまー！」と元気いっぱいに駆け寄っていく子どもたちの姿がとても印象的でした。



「はじめのいっぽキャンプ」は 1 泊 2 日という短いキャンプではありますが、大きな事故や怪我もなく、無事にすべての活動を終えることができました。今回のキャンプには、初めてパパやママと離れてお泊まりをするお友だちも多く、最初は緊張した様子も見られましたが、お友だちやリーダーと一緒に活動する中で、少しずつ笑顔が増えていきました。ザリガニ釣りや竹の水鉄砲作り、水遊びなど、自然の中でさまざまな活動を体験し、初めてのことに挑戦する姿がたくさん見られました。また、今回は「どきどきのたね」をテーマに、さまざまなプログラムを行いました。プログラムを重ねるごとに、イラストが「種」から「芽」、そして最後には「花」へと変化していきます。子どもたちからは「芽が出てる〜！」「どんな花が咲くのかな〜？」という声も聞かれ、イラストの変化を楽しみにしながら、一つひとつのプログラムに取り組んでいました。初めてのお泊まりや新しいお友だちとの出会い、初めての活動など、2 日間にはたくさんの「どきどき」があったことと思います。その一つひとつに挑戦した経験が、子どもたちにとって「やってみた！」「できた！」という自信につながってくれたら嬉しく思います。

今後も YMCA のさまざまなプログラムで、子どもたちにお会いできることを、スタッフ・ボランティアリーダー一同、楽しみにしております。

この度は、「はじめのいっぽキャンプ」にご参加いただき、誠にありがとうございました。



キャンプディレクター 松原 奈美（まっつー）

キャンプ名：Yキッズキャンプ ～仲間と出会う夏のキャンプ体験～

日程：2026年7月25日（土）～7月27日（月）

場所：千葉市少年自然の家（ログハウス）

参加対象：小学1年生～小学6年生

運営体制：	キャンプディレクター	小林 和弘	(かずっちリーダー)
	プログラムディレクター	松原 奈美	(まっつーリーダー)
	グループリーダー	高橋 一花	(みんとリーダー)
		金谷 咲和	(はなまるリーダー)
		安藤 みゆき	(ロンリーダー)
		小林 萌華	(ふおるてリーダー)
		柴田 りの	(LiLi リーダー)
		篠塚 翔	(しのっぴリーダー)
		黒田 晃正	(くろろリーダー)
応援リーダー		中村 聡志	(ブルリーダー)
		齋藤 優菜	(すいリーダー)
		劉 子謙	(なつみ) ICCPJ プログラムでの参加
		陳 以恩	(イアン) ICCPJ プログラムでの参加
		中村 菜々美	(ジュニアリーダー)
		西田 花菜	(ジュニアリーダー)

タイムテーブル：

時間	1 日目	2 日目	3 日目
午前	公共交通機関で移動 (千葉/流山)	朝食 竹の水鉄砲作り 水遊び	朝食 ザリガニ釣り
午後	昼食 木のペンダント作り ウォークラリー 自由時間	昼食 お昼寝 スモアーズ 自由時間	昼食 振り返り 解散
夜	夕食 クライミングウォール 体験	夕食 全体レクリエーション	

ディレクター報告：

この度は、千葉YMCA 環境野外教育研究所主催「Yキッズキャンプ」にご参加いただきまして、ありがとうございました。Yキッズキャンプは、小学1年生から6年生を対象に、千葉市少年自然の家をキャンプ地として2泊3日の日程で実施しました。今回のキャンプは、初めてキャンプに参加する子どもたちが多く、集合時には楽しみにしている様子とともに、少し緊張した表情も見られました。家族と離れて過ごすこと、初めて出会う友だちやリーダーと生活すること、そして初めて経験する様々な活動。子どもたちにとって、たくさんの「初めて」が詰まった3日間となりました。また、このキャンプには中学生のジュニアリーダー2名も参加しました。2人は、これまでYMCA キャンプに参加者として参加してきた元キャンプメンバーです。今回は年下の子どもたちと一緒に遊びながら、時には声を掛けたり、活動を手伝ったりと、「参加する側」から少しずつ「支える側」へと役割を変えてキャンプに関わってくれました。

キャンプ1日目、各集合場所から公共交通機関を利用して千葉市少年自然の家へ向かいました。電車やバスを乗り継ぎながらの移動もキャンプの一部です。グループの仲間やリーダーと話をしたり、一緒に移動したりする中で、集合時には緊張していた子どもたちにも少しずつ笑顔が増えていきました。施設に到着して最初に取り組んだのは、キャンプ中の名札として使用する「木のペンダント作り」です。木の板に自分の名前や好きな絵、模様などを描き、自分だけのペンダントを完成させました。その後は、グループごとに施設を探検するウォークラリーを行いました。千葉市少年自然の家は広く、3日間の中で様々な場所を利用します。実際に施設内を歩きながら場所を知るとともに、グループの仲間と一緒に行動することで、お互いの名前を覚えたり、会話をしたりするきっかけにもなりました。ウォークラリーのあとには「自然環境館」も見学しました。施設周辺の自然や生き物について展示を見ながら、興味を持ったものをじっくり観察する子どもたちの姿もありました。そして今回の宿泊場所は「ログハウス」です。グループごとに一棟のログハウスを使用し、3日間の生活を共にしました。活動の時間だけではなく、着替えをしたり、荷物を整理したり、寝る前に話をしたりする時間も、キャンプでは大切な時間です。特に初めて参加する子どもたちにとっては、友だちやリーダーと同じ場所で寝泊まりすること自体が一つの大きな経験となりました。1日目夜のプログラムは「クライミングウォール」です。高さは3m、6m、9m。実際に壁を目の前にすると、下から見ていた時以上に高さを感じます。「やってみたい!」とすぐに挑戦する子もいれば、「ちょっと怖い」と迷う子もいました。でも私たちが大切にしたのは、必ず一番上まで登ることではありません。3mに挑戦してみる。もう少しだけ上に手を伸ばしてみる。途中まで登って「今日はここまで」と自分で決める。それも一つの挑戦です。友だちやリーダーから応援の声が飛ぶ中、それぞれが自分なりの目標に向かって壁に挑みました。



2日目は「竹の水鉄砲作り」からスタートしました。竹を使い、自分たちで水鉄砲を作っていきますが、もちろん作って終わりではありません。そのまま芝生へ出て、水遊びのスタートです。自分で作った水鉄砲に水を入れて、友だちやリーダーと水を掛け合いました。最初は水鉄砲で遊んでいたはずが、次第に遊び方も広がり、水風船を使って子どもたちもリーダーもびしょ濡れになりながら楽しみました。たくさん遊んだ後は、お弁当を食べてひと休み。その後は「スモアーズ作り」を行いました。マシュマロを焼き、お菓子と一緒に挟んで食べます。自分で焼いたマシュマロの出来上がりを楽しみにしながら、キャンプならではの夏の時間を過ごしました。そのあとは「自由時間」も設けました。キャンプでは、あらかじめ用意されたプログラムだけではなく、子どもたちが自分で「何をして過ごしたいか」を考える時間も大切にしています。友だちを誘って遊んだり、リーダーと一緒に身体を動かしたり、ログハウスでゆっくり過ごしたり。それぞれが自分のやりたいことを見つけて過ごしました。キャンプ2日目になると、初日にはまだ少し距離のあった子どもたち同士にも自然な関わりが増えていきます。こうした何気ない時間の中で、「同じグループの子」から「一緒に遊ぶ友だち」へと関係が変わっていく様子も見られました。夜は全員が集まって「全体レクリエーション」を行いました。ゲームやレクリエーションを次々と楽しみ、子どもたちは大盛り



上がり。子どもたちだけでなくリーダーも一緒になって身体を動かし、笑い声の絶えない時間となりました。初日には緊張した表情を見せていた子どもたちも、この頃にはすっかりキャンプの雰囲気慣れ、学年やグループを越えてみんなで楽しむ姿が印象的でした。

そしてあっという間に最終日です。まずは 3 日間生活をしたログハウスで荷物整理を行いました。自分の着替えを袋に入れ、忘れ物がないか確認し、使った場所をきれいにしていきます。特に低学年や初めてキャンプに参加する子どもたちにとって、自分の荷物を自分で管理することは簡単なことではありません。ただリーダーがすべてをやってしまうのではなく、一緒に確認したり、必要に応じて手伝ったりしながら、自分でできることには自分で取り組みました。そして、キャンプ最後の活動は「ザリガニ釣り」です。竿を水の中に垂らして待っていると、次々とザリガニが姿を見せます。今回釣れたザリガニは、なんと全体で 100 匹以上。「また釣れた!」「こっちにもいる!」と、あちらこちらから子どもたちの声が聞こえてきました。たくさん釣ることを楽しむ子がいる一方で、今回初めてザリガニに触れる子もいました。目の前にするとハサミが少し怖く、なかなか手を伸ばせない。それでも友だちが触っている様子を見たり、リーダーに持ち方を教えてもらったりしながら、少しずつ手を近づけていきます。そして、勇気を出して初めて触ることができた時の表情。たくさん釣れたことだけではなく、「怖かったけれど、やってみたらできた」という経験も、この活動の中にありました。活動を終えた後は、3 日間の振り返りを行いました。楽しかったこと、頑張ったこと、心に残ったこと。それぞれがキャンプで過ごした時間を振り返りました。そして、千葉市少年自然の家を出発。再び公共交通機関を利用して、それぞれの解散場所へ帰りました。



今回の Y キッズキャンプのサブタイトルは、「仲間と出会う、夏のキャンプ体験」でした。今回のキャンプは、初めてキャンプに参加する子どもたちが多く、集合した時には少し緊張した表情も見られました。学校も学年も違う。名前も知らない。そんな子どもたちが同じグループになり、2 泊 3 日の生活を共にしました。一緒に電車やバスに乗り、同じログハウスで生活する。バイキングで食事をして、ウォークラリーで施設を歩き、クライミングウォールに挑戦する。水遊びでは一緒にびしょ濡れになり、夜のレクリエーションではみんなで大笑いする。キャンプでは、特別なプログラムだけで仲間になるわけではありません。「一緒に行こう」「次、何して遊ぶ?」「がんばれ!」「大丈夫?」そんな何気ない言葉を交わしながら、一緒に過ごす時間を積み重ねることで、初日に出会ったばかりの子どもたちの距離が少しずつ近づいていきました。



また、キャンプにはたくさんの「初めて」もありました。初めて家族と離れて宿泊したこと。高いクライミングウォールに挑戦したこと。初めて会った友だちと一緒に遊んだこと。初めてザリガニに触ったこと。できたこともあれば、思うようにできなかったこともあったと思います。それでも、そばには一緒に挑戦する仲間や、応援してくれるリーダーがいました。一人では少し勇気が必要なことも、誰かと一緒なら「やってみよう」と思える。それも、キャンプという集団生活だからこそ生まれる経験の一つだと考えています。そして今回、そんな「仲間との出会い」を象徴するような存在が、中学生のジュニアリーダー

ー2名でした。2人も、かつてはYMCAキャンプに参加する子どもたちの一人でした。リーダーに遊んでもらい、仲間と出会い、様々な経験をしてきた2人が、中学生になった今年はジュニアリーダーとしてキャンプに戻ってきました。今度は自分たちが年下の子どもたちと遊び、声を掛け、時にはその挑戦を支える。キャンプで出会った人とのつながりが、その3日間だけで終わらず、次の出会いへとつながっていく。その姿を見ることができたことも、今回のYキッズキャンプの大きな喜びでした。「仲間と出会う、夏のキャンプ体験」。今回出会った友だちと、これからずっと一緒にいるわけではないかもしれませんが、それでも、名前も知らなかった誰かと一緒に笑い、遊び、挑戦し、同じ場所で生活した3日間は、子どもたちの中に残っていきます。そして、キャンプに来る前には少し不安だった子が、帰る時に「楽しかった」「またキャンプに行きたい」と思ってくれたなら、それはこの3日間で仲間と一緒に過ごした時間があったからこそだと思います。この夏の出会いと経験が、子どもたちにとって新しいことへ一歩踏み出す力となり、また次の出会いへとつながっていくことを願っています。



この度は「Yキッズキャンプ」にご参加いただき、ありがとうございました。

キャンプディレクター 小林 和弘（かずっち）

キャンプ名：さしまあそびの森 ～森でみつける 夏のたからもの～

日程：2026 年 8 月 2 日（日）～8 月 4 日（火）

場所：茨城県立さしま少年自然の家

参加対象：小学 1 年生～小学 6 年生

運営体制：キャンプディレクター 小林 和弘 （かずっちリーダー）

グループリーダー	古川	花乃	(ぼぼリーダー)	
	藤原	彩来	(じょいリーダー)	
	高品	玲奈	(ビーバーリーダー)	
	美馬	侑佳	(やー。リーダー)	
	堂前	望果	(ちゃいリーダー)	
	水谷	珠梨亜	(ふおっこリーダー)	
	宮内	美結	(ちゃちゃリーダー)	
	寺島	颯太	(てらっちょリーダー)	
	久松	梨乃	(ジュニアリーダー)	
	福田	由珠	(ジュニアリーダー)	
	応援リーダー	中村	聡志	(ブルリーダー)

タイムテーブル：

時間	1 日目	2 日目	3 日目
午前	バス移動（千葉/流山）	朝食 バードコール 流しそうめん準備	朝食 どじょうの捌み取り
午後	昼食 木のペンダント作り 施設探検 自由時間①	昼食（流しそうめん） お昼寝 水遊び ドラム缶風呂体験 自由時間②	昼食 振り返り 帰宅
夜	夕食 花火	夕食 キャンプファイヤー	

ディレクター報告：

この度は、千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催「さしまあそびの森キャンプ」にご参加いただきまして、ありがとうございました。今年度は「森で見つける 夏のたからもの」をサブタイトルに、茨城県立さしま少年自然の家をキャンプ地として 2 泊 3 日の活動を実施しました。さしま少年自然の家は、広い敷地の中に森や芝生広場、野外炊飯場などがあり、自然の中で様々な活動を楽しむことができる施設です。今回のキャンプでは、森の中でのウォークラリーや水遊びなど身体を動かす活動だけでなく、バードコール作り、流しそうめん、ドラム缶風呂、どじょうのつかみ取りなど、普段の生活ではなかなか経験することのできない活動にも取り組みました。また、キャンプでは一つひとつのプログラムと同じくらい、仲間やリーダーと一緒に生活する時間を大切にしています。初めて出会う友だちと一緒に食事をしたり、同じ部屋で寝たり、遊びを考えたりする 2 泊 3 日。様々な経験を通して、子どもたちがどんな「夏のたからもの」を見つけるのか、私たちも楽しみにしながらキャンプがスタートしました。

キャンプ初日、各集合場所から大型バスに乗り込み、さしま少年自然の家へ向かいました。バスの中では自己紹介やレクリエーション、キャンプソングなどを楽しみながら過ごしました。初めてキャンプに参加するお友だちには少し緊張した様子も見られましたが、一緒に遊んだり話をしたりする中で、少しずつ子どもたち同士の会話や笑顔も増えていきました。施設に到着して最初に取り組んだのは、キャンプ中の名札として使用する「木のペンダント作り」です。木の板に自分の名前や好きな絵を描き、それぞれオリジナルのペンダントを完成させました。午後はグループごとに「ウォークラリー」へ出発です。



広い施設内や森の中を歩きながら、グループの仲間と協力してポイントを探していきます。「こっちじゃない?」「地図ではこっちだよ」と相談したり、途中で虫や植物を見つけて足を止めたりする姿もありました。キャンプ初日にウォークラリーを行うことで、施設の場所を知るだけでなく、グループの仲間と一緒に考えたり行動したりする機会にもなります。まだ出会って間もない子どもたちでしたが、活動を終える頃には少しずつお互いの名前を呼び合う姿も増えていました。ウォークラリーの後は「自由時間」です。芝生で身体を動かしたり、虫を探したり、友だちやリーダーと遊んだり、それぞれがやりたいことを見つけて過ごしました。自由時間は、決められたプログラムとは違い、子どもたち自身が「何をして過ごすか」を考える時間でもあります。誰かを遊びに誘ったり、途中から別の遊びが始まったりするなど、子どもたち同士の関係が自然に広がっていく時間となりました。そして夕食後は「花火」です。グループごとに集まり、手持ち花火を楽しみました。昼間とは違った雰囲気の中で、友だちやリーダーと一緒に過ごし、キャンプ最初の日を終えました。



2日目の午前中は、クラフト「バードコール作り」からスタートしました。バードコールは、木と金属をこすり合わせることで鳥の鳴き声のような音を出す道具です。木の部分に絵や模様を描き、それぞれ自分だけのバードコールを作りました。完成すると、さっそく音を鳴らしてみる子どもたち。「鳥みたい!」「こっちの方が大きな音がする!」と、友だち同士で聞き比べる姿も見られました。クラフトを完成させた後は、昼食の「流しそうめん」の準備です。今回は、用意されたそうめんを食べるだけではなく、子どもたちも麺を茹でるところから取り組みました。そうめんが茹で上がったら、いよいよ流しそうめんのスタートです。流れてくるそうめんを箸で一生懸命追いかけます。上手につかめる子もいれば、目の前を通り過ぎてしまい「あー!」と声を上げる子もいました。次々と流れてくるそうめんを囲みながら、みんなで賑やかな昼食となりました。そして昼食後は「お昼寝」です。キャンプでは朝から夜まで様々な活動があります。



特に暑い夏のキャンプでは、思い切り遊ぶ時間と同じくらい、身体を休ませる時間も大切にしています。午後の活動に向けて、ゆっくり身体を休めました。お昼寝の後は「水遊び」をやりました。暑い日差しの中、子どもたちもリーダーたちも全身びしょ濡れになりながら思い切り遊びました。水を掛け合ったり、友だちを追いかけたり、大きな笑い声が聞こえてきます。そして、水遊びの後には「ドラム缶風呂」をやりました。子どもたちは順番にドラム缶風呂の中に入り、温かいお湯につかります。先ほどまで水を掛け

合って走り回っていた子どもたちも、お湯につかると表情が一変。「あったかい!」「気持ちいい!」と、普段のお風呂とは違う体験を楽しんでいました。2日目の夜は「キャンプファイヤー」です。暗くなった屋外にみんなで集まり、中央に組まれた薪を囲みました。レクリエーションで身体を動かし、みんなで声を出して笑い、キャンプソングを歌います。昼間は生活グループを中心に過ごすことが多い子どもたちですが、キャンプファイヤーでは参加者とリーダー全員が一緒になって楽しみました。大きく燃えていた炎が少しずつ小さくなり、キャンプ2日目も過ぎていきました。



そしてあっという間に迎えたキャンプ最終日。朝食後は、自分たちの荷物整理と部屋の片付けからスタートしました。キャンプでは、着替えや荷物の整理など、身の回りのこともできる限り自分たちで取り組みます。リーダーもすべてを代わりに行うのではなく、「次は何をすればいいかな?」「忘れていないものはない?」と声を掛けながら、子どもたち自身が考えて行動できるように関わっていきました。もちろん、最終日の荷物整理は毎回とても賑やかです。「これ誰の?」「タオルがない!」「この靴下、僕のじゃない!」そんな声も聞こえてきましたが、グループの仲間やリーダーと一緒に確認しながら、少しずつ帰宅の準備を進めていきました。そして、キャンプ最後のプログラムは「どじょうのつかみ取り」です。川の中に入り、素早く泳ぐどじょうを自分たちの手で捕まえます。簡単に捕まえられと思っていた子どもたちも、いざ始まってみると大苦戦。捕まえたと思った瞬間に手の間からスルッと抜けてしまいます。何度も挑戦してようやく捕まえることができると、「捕まえた!」と嬉しそうに周りの友だちやリーダーに見せていました。普段の生活では、どじょうを実際に見たり触れたりする機会も少なくなっています。生き物の動きや感触、力強さなど、写真や映像を見るだけでは分からないことを、実際に触れることで感じる時間となりました。どじょうのつかみ取りを終え、昼食を食べた後は、いよいよさしま少年自然の家を出発します。たくさん遊んだ森ともお別れです。大型バスに乗り込み、それぞれの解散場所へ向かいました。



今年の「さしまあそびの森キャンプ」は、2泊3日という時間の中で、様々な活動を行いました。ウォークラリーで歩いた森、バードコール作り、みんなで食べた流しそうめん、水遊びやドラム缶風呂、キャンプファイヤー、そしてどじょうのつかみ取り。どれも、子どもたちにとってこの夏の思い出のひとつになってくれたら嬉しく思います。しかし、キャンプを振り返った時、子どもたちの心に残るものは、必ずしも私たちが用意したプログラムだけではありません。自由時間に友だちと一緒に遊んだこと。食事の時に隣の子と話したこと。夜、同じ部屋で過ごしたこと。できなかったことに挑戦したこと。困った時に誰かに助けてもらったこと。自分から誰かに声を掛けたこと。私たち大人から見れば何気ない出来事でも、子どもたちにとっては、それがキャンプで一番心に残った出来事になることもあります。

そして今回のキャンプには、中学生のジュニアリーダー2名も参加しました。2人も、これまでYMCAのキャンプに参加する側だった子どもたちです。そんな2人が中学生になり、今回はジュニアリーダーとして、年下の子どもたちと一緒に遊んだり、活動を手伝ったり、時にはそっと声を掛けたりしながら3日間を過ごしました。少し前まではリーダーに支えてもらっていた子どもたちが、今度は年下の子ど

もたちのそばに立っている。その姿を見ると、キャンプでの経験や人とのつながりは、その時だけで終わるものではないのだと改めて感じます。キャンプで誰かにしてもらったことや、一緒に過ごした楽しい記憶が、いつか「今度は自分がやってみよう」という気持ちにつながっていく。今回のジュニアリーダー2名の姿も、これまでのキャンプの中で見つけ、大切にしてきた「たからもの」の一つなのかもしれません。2泊3日という短い時間の中で、子どもたちがどんな「たからもの」を見つけたのか、それは一人ひとり違うと思います。形として持ち帰った木のペンダントやバードコールだけではなく、「楽しかった」「できた」「またやってみたい」という気持ちや、一緒に過ごした仲間との思い出も、この夏に見つけた大切な「たからもの」として心の中に残ってくれたら嬉しく思います。

キャンプディレクター 小林 和弘（かずっち）

キャンプ名：岬の大冒険キャンプ ～海の青、森の緑、心もあそぶ4日間～

日程：2026年8月11日（火・祝）～8月14日（金）※8月14日～15日は延泊

場所：南房総市大房岬自然の家

参加対象：小学1年生～6年生

運営体制：キャンプディレクター 小林 和弘（かずっちリーダー）
プログラムディレクター 黒田 晃正（くろろリーダー）
グループリーダー 佐瀬 もなみ（どんちゃんリーダー）
山本 恵玲菜（ぶんぶんリーダー）
穴田 暖乃（リールリーダー）
古川 花乃（ぼぼリーダー）
寺島 颯太（てらっちょリーダー）
大木 翔（オセロリーダー）
松原 奈美（まっつーリーダー）

移動担当スタッフ

タイムテーブル：

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前	集合 （流山おおたかの森/千葉） 電車で移動	朝食 オオトリ浜 磯遊び	朝食 野外炊飯	朝食 ウインドチャイム作り	朝食 帰宅準備 解散
午後	昼食 オリエンテーション 岬のライドショー 海岸散策① 木のペンダント作り	昼食 お昼寝 チョイスプログラム （芝生遊び or 室内遊び）	昼食 お昼寝 チョイスプログラム （カニ釣り or 体育館遊び）	昼食 お昼寝 海岸散策②	
夜	夕食 全体レクリエーション	夕食 ナイトアドベンチャー	夕食 キャンドルファイヤー	夕食 ナイトシアター	

ディレクター報告：

この度は、千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催「岬の大冒険キャンプ」にご参加いただき、ありがとうございました。今年のキャンプは、8月11日から14日までの3泊4日の日程で、南房総市にある「大房岬自然の家」を舞台に実施しました。大房岬は、豊かな森と海の両方を一度に楽しむことができる自然豊かなフィールドです。森の中には様々な生き物が暮らし、少し歩けば海岸へ出ることができます。かつて旧日本軍の要塞として使われていた歴史もあり、自然だけではない様々な表情を持っている場所です。今年のキャンプでも、海での磯遊び、森の探検、野外炊飯、自由時間など、子どもたちは大房岬の自然の中でたくさんの「発見」と「挑戦」を重ねていきました。そして今年は、私たちにとっても忘れることのできないキャンプとなりました。最終日に帰宅する予定だった私たちを待っていたのは、前夜から続いた千葉県内の豪雨でした。自然の中で活動するということは、自然の楽しさや美しさに触れるだけでなく、時には自然の大きな力と向き合うことでもあります。予定通りにはいかなかった今年の「岬の大冒険キャンプ」。しかし振り返ってみれば、その出来事も含めて、まさに「大冒険」と呼ぶにふさわしい時間になったように思います。

キャンプ初日、子どもたちはそれぞれの集合場所から公共交通機関を利用して大房岬へ向かいました。電車などを乗り継ぎながら、仲間やリーダーと一緒に目的地を目指しました。キャンプでは現地で行う活動だけではなく、この移動時間も大切な時間です。初めて参加する子どもた



ちには少し緊張した表情も見られましたが、自己紹介をしたり、お友だちやリーダーと話をしたりしながら、少しずつキャンプの仲間としての関係が始まっていきました。大房岬に到着して最初に行ったのは「岬のスライドショー」です。これから4日間過ごす大房岬には、どんな生き物がいるのか。どんな自然が広がっているのか。そして、どんな歴史がある場所なのか。写真を見ながら紹介していきました。

「こんな生き物いるの?」「海で探してみたい!」「ここ行ってみよう!」話を聞いているうちに、子どもたちからも様々な声が聞こえてきました。「まず知る。そして、自分の目で確かめに行く。」スライドショーの後は、さっそく実際の大房岬へ出掛けました。海岸までの道のりにも、大房岬ならではの森が広がっています。木々の間を歩き、海が近づくにつれて聞こえてくる波の音。森を抜けた先に海が見えると、子どもたちの表情も一気に明るくなりました。この日は海で泳ぐのではなく、海岸をゆっくり散策します。岩場や潮だまりを覗いたり、貝殻を探したり、カニや小さな生き物を見つけたり。スライドショーで見た大房岬の自然を、今度は自分たちの目で確かめていきました。施設へ戻ってからは、キャンプ中の名札となる「木のペンダント作り」。木の板に自分の名前や好きな絵を描き、世界に一つだけのペンダントを作りました。そして夜は「レクリエーションタイム」。グループだけでなく参加者全員が集まり、身体を動かしたり、みんなで笑ったりしながら過ごしました。昼間にはまだ少し緊張していた子どもたちも、夜になる頃には友だちの名前を呼び合ったり、一緒になって遊んだりする姿が増えていました。こうして、岬での最初の日が終わりました。



2日目の午前中は、子どもたちが楽しみにしていた海の活動です。向かったのは「オオトリ浜」です。大房岬にはタイマイ浜とオオトリ浜という二つの海岸があります。初日に訪れたタイマイ浜とはまた違った景色が広がっています。ライフジャケットを身につけ、安全についての約束を確認してから磯遊びがスタートしました。潮だまりを覗いて生き物を探す子。岩の隙間に隠れたカニを追いかける子。水際で波を楽しむ子。目の前に広がる海そのものが、子どもたちにとって大きな遊び場です。「あそこに何かいる!」「こっち来て!」「捕まえた!」子どもたちの声が聞こえてきました。たっぷり海で遊んで施設へ戻った後は、昼食を食べて「お昼寝」。朝から身体を動かしていることもあり、横になるとあっという間に眠ってしまう子どもたちもいました。身体を休めた後は自由時間です。芝生の広場に出て思い切り身体を動かしたり、友だちやリーダーと遊んだり、それぞれが好きな時間を過ごしました。大房岬の魅力は、何か特別なプログラムをしなくても、外に出れば豊かな森や芝生、海があることです。そして夜2日目の夜は「ナイトアドベンチャー」を実施しました。昼間歩いた大房岬も、太陽が沈むとまったく違う場所に変わります。懐中電灯を手に、暗い森の中へ出発しました。目から入る情報が少なくなる夜の森では、風の音、虫の鳴き声、木々が揺れる音、潮の匂いなど、昼間には気が付かなかったものを感じることができます。「少し怖いけど行ってみよう」、そんな気持ちの間を行ったり来たりしながら、仲間と一緒に一步步暗闇を進んでいきました。



3 日目の午前中は「野外炊飯」からスタートです。この日の昼食となる「焼きそば」を、自分たちで作りました。食材を準備し、火を扱い、みんなで協力しながら調理をしていきます。普段であれば出来上がった料理が目の前に並びますが、野外炊飯ではそうはいきません。準備をする人。火を見守る人。食材を運ぶ人。調理をする人。一人ではできないことも、仲間と役割を分ければ少しずつ形になっていきます。苦労して作った焼きそばをみんなで食べる時間は、いつもの昼食とはまた違った美味しさがあります。午後は、子どもたちの興味に合わせて、それぞれ好きな活動を楽しみました。海の近くでは「カニ釣り」。どこにカニが隠れているのかをじっと観察し、餌を近づけながら試行錯誤します。体育館では思い切り身体を動かして遊ぶ子どもたちの姿がありました。そして遊びの後には、みんなでスイカを食べました。夜は「キャンドルファイヤー」を行いました。それまでの賑やかな時間から少し雰囲気を変え、キャンドルの灯りを囲みます。この3日間で楽しかったこと、頑張ったこと、初めて挑戦したこと、友だちやリーダーと過ごした時間。一人ひとりがキャンプで感じたことを振り返りながら、仲間と一緒に過ごす最後の夜をゆっくりと味わいました。



あっという間にキャンプ最終日を迎えました。午前中の最後のプログラムは「ウインドチャイム作り」です。貝殻などを使い、大房岬で過ごしたキャンプの思い出を形にしていきます。どの素材を使うのか。どんな順番でつけるのか。どんな形にするのか。同じ材料を使っても、完成する作品は一人ひとり違います。昨年度も最終日のクラフトとして貝殻のウインドチャイムを制作しており、子どもたちが貝殻の形や大きさに苦戦しながらも、自分なりの作品に仕上げていく姿が見られました。作品が完成し、いよいよキャンプも終わりを迎える――。



私たちも子どもたちも、そのつもりでしたが、この日は予定通りに帰ることができませんでした。前日の夜から千葉県内では激しい雨が降り続いていました。朝から交通機関の運行状況や道路状況などの情報を確認しながら帰宅方法を検討しましたが、安全に子どもたちを帰宅させるための手段を確保することが難しい状況となりました。キャンプでは、予定していたプログラムを実施すること以上に、子どもたちの安全を守ることを最優先にしています。情報収集を続け、施設とも相談を重ねた結果、「本日の帰宅はせず、大房岬自然の家にもう一泊する」という判断をしました。当然ながら、当初の計画にはなかった延泊です。「今日帰ると思っていたのに」「もう一泊するの？」子どもたちにも様々な気持ちがあったと思います。しかし、自然の中で活動をしている以上、私たちの予定通りに自然が動いてくれるわけではありません。海の波も、森の風も、雨も同じです。自然に合わせて予定を変えること、その時にできる最善の方法をみんなで考えることが大切だと改めて気づかされました。今年の「岬の大冒険キャンプ」は、最後にこれまでとはまったく違う「大冒険」を迎えることになりました。

延泊が決まりましたが、外を見ると昨夜の大雨が嘘のように、大房岬には青空が広がっていました。そしてまず取り掛かったのは「洗濯」です。本来であればこの日に帰宅する予定だったため、当然、翌日に着るための洋服は準備していません。そこで、もう一日生活するために必要な衣類を確認し、みんなで洗濯の準備を進めました。「明日着る服ある？」普段のキャンプではあまり考える事のないことですが、予定が変われば、自分たちの生活もそれに合わせて変えていかなければなりません。そして昼食後は、「お昼寝」もしました。お昼寝のあとは3回目となる「海岸あそび」です。本来の予定にはなかったプロ

グラムでしたが、せっかく大房岬でもう一日過ごすなら、この時間も思い切り楽しもう！と海へ出掛けました。初日にタイマイ浜を散策し、2日目にはオオトリ浜で磯遊び。そしてもう一度タイマイ浜へ。同じ海でも、潮の満ち引きや天候によって景色も見つかる生き物も変わります。何度訪れても新しい発見があることも、自然の面白さです。

それと延泊が決まったことで、もう一つ大きな問題がありました。それは「食事」です。施設で用意されていた食事は、この日の昼食まで。本来であれば夕方には帰宅している予定だったため、この日の夕食と翌日の朝食はありません。そこで YMCA スタッフが急遽、現地で買い出しに走りしました。おにぎりをはじめ、夕食や翌朝に必要な食事を調達し、無事に準備することができました。でも、「買ってきたおにぎりをそのまま配るだけでは面白くない！」。そこで企画したのが、「おにぎり探し大会」です。大房岬自然の家に許可をいただき施設内に約 70 個のおにぎりを隠し、宝探しのように自分たちの夕食を探すことにしました。「どこにあるんだろう？」「こっちじゃない？」子どもたちは施設内を探し回り、おにぎりをを見つけるたびに大盛り上がり。本来であれば「延泊したため急遽用意した夕食」だったものが、いつの間にか、この日だけの特別なプログラムに変わっていきました。そして見つけたおにぎりを持って向かったのは海岸近くの芝生です。穏やかな海を眺めながら、みんなで夕食を食べました。前日の夜には激しい雨が降り、この日の午前中には帰宅できるかどうかを心配していたことが嘘のような、穏やかな時間が流れていました。これは予定通りに帰っていたら、出会うことのなかった夕日でした。沈んでいく夕日を眺めながら、みんなで夕食を食べました。目の前には海が広がり、空は少しずつ夕焼けに染まってきました。そして夜には、大房岬自然の家職員による特別プログラム「ナイトシアター」が開催されました。これも、延泊をする私たちのために用意してくださった特別な時間です。朝には想像もしていなかった、3回目の海、おにぎり探し、夕日を眺めながらの夕食、そしてナイトシアター。予定外の出来事から始まった一日でしたが、振り返ってみると、予定表にはなかった思い出が次々と生まれた一日となりました。自然の中では、いつも予定通りにいくとは限りません。ですが、「予定通りにいかない＝楽しくない」ではありません。今ある状況の中で「じゃあ、何ができるだろう」と考える。誰かがアイデアを出し、それをみんなで楽しんでみる。そんな力もキャンプの中で子どもたちに感じてほしいことのひとつです。「帰れなくなったから仕方なく過ごした一日」ではなく、「みんなの力で予定にはなかった新しい一日をつくった」、岬の大冒険キャンプ4日目は、そんな一日になりました。



今年の「岬の大冒険キャンプ」は、前日の豪雨によって交通機関が止まり、予定通りに帰ることができない。子どもたちにとっても、リーダーたちにとっても、これまで経験したことのない出来事がありました。ただ自然の中で活動していると、すべてが予定通りに進むわけではありません。雨が降ることもあれば、海の状態によって活動を変更することもあります。そして今回のように、自分たちの力ではどうすることもできない出来事に会うこともあります。そんな時に大切なのは、「今、この場所で何ができるだろう」と考えることなのかもしれません。そして今回、予定外の延泊を安全に乗り越えることができたのは、大房岬自然の家の皆様をはじめ、様々な方々のお力添えがあったからだと思います。また、突然の予定変更にもかかわらず、状況をご理解いただき、私たちの判断を信



じて子どもたちを待ってくださった保護者の皆様にも、改めて心より感謝申し上げます。子どもたちがいつかこのキャンプを思い出した時、「大雨で帰れなかったキャンプ」だけではなく、「帰れなくなったけど、なんだか楽しかったね」と笑って話してくれたら、私たちにとってこれほど嬉しいことはありません。今回のキャンプのサブタイトル「海の青、森の緑、心もあそぶ4日間」。大房岬には、目の前に広がる青い海があり、たくさんの生き物が暮らす緑豊かな森があります。子どもたちはその中で、海に入り、生き物を探し、森を歩き、思い切り身体を動かして遊びました。そして「心もあそぶ」という言葉には、ただ楽しく遊ぶだけではなく、自然の中で心が動く瞬間をたくさん経験してほしいという想いを込めています。海を見て「きれい!」と思ったこと。生き物を見つけて夢中になったこと。夜の森を少し怖いと感じたこと。友だちと一緒に笑ったこと。できなかったことに挑戦したこと。そして、予定通りにいかない出来事の中でも、「じゃあ、何ができるだろう」とみんなで考えたこと。楽しい、嬉しい、怖い、悔しい、やってみたい――。自然の中で仲間と過ごしたからこそ、子どもたちの心もたくさん動いた5日間だったように思います。

この度は「岬の大冒険キャンプ」にご参加いただき、ありがとうございました。

キャンプディレクター 小林 和弘（かずっち）

キャンプ名：ほしふる 5Days Camp ～自然の中で自分と出会う 5 日間～

日程：2026 年 8 月 22 日（土）～8 月 26 日（水）

場所：星ふる学校「くまの木」

参加対象：小学 1 年生～中学 3 年生

運営体制：キャンプディレクター	小林 和弘	(かずっちリーダー)
プログラムリーダー	大木 翔	(オセロリーダー)
グループリーダー	鈴木 楓葉	(けぼぶリーダー)
	藤原 彩来	(じょいリーダー)
	高品 玲奈	(ビーバーリーダー)
	山本 恵玲菜	(ぶんぶんリーダー)
	古川 花乃	(ぼぼリーダー)
	寺島 颯太	(てらっちょリーダー)
	黒田 晃正	(くろろリーダー)
応援リーダー	田村 夢	(ぎゅうリーダー) ※4 日目昼～
	渡辺 実喜	(くらりすリーダー) ※4 日目朝～
	平山 華	(ころもリーダー) ※1 日目～2 日目参加
	高橋 瞬	(ぱっそリーダー) ※1 日目～2 日目参加
	中村 聡志	(ぶるリーダー) ※1 日目～2 日目参加

タイムテーブル：

時間	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
午前	バス移動（千葉/流山）	朝食 夏祭り準備①	朝食 川遊び	朝食 スタンプ準備 自由時間③	朝食 鮎の掴み取り 自由時間⑤
午後	昼食 周辺散策 木のペンダント作り 自由時間①	BBQ お昼寝 お面作り 自由時間②	昼食 お昼寝 夏祭り	流しそうめん スタンプ大会 自由時間④	昼食 振り返り 出発
夜	夕食 ナイトハイク	夕食 全体レクリエーション	夕食（屋台風） 花火	夕食 キャンドル ファイヤー	

ディレクター報告：

この度は、千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催「ほしふる 5Days Camp」にご参加いただき、ありがとうございました。キャンプの舞台となる「星ふる学校くまの木」は、栃木県塩谷郡塩谷町にある旧熊ノ木小学校を活用した宿泊施設です。どこか懐かしさを感じる木造校舎、広い校庭、その周りに広がる田畑や里山。少し歩けば、冷たく澄んだ水が流れる東荒川があります。私たちがこの場所を訪れるようになってから、毎年変わらず感じる事、それは「ここでは時間がゆっくり流れる」ということです。今回のキャンプは、これまでより 1 日長い「4 泊 5 日」。だからこそ、たくさんのプログラムを詰め込むのではなく、あえて余白をつくり、子どもたちが自分で遊びを見つけたり、仲間と相談したり、プログラムではない時間を楽しむことを大切にしました。キャンプはサブタイトルは、「**自然の中で自分と出会う 5 日間**」です。自然の中で仲間と過ごす時間、その中で「やってみたい」「もう一回やりたい」「ちょっと休みたい」「自分にもできた」「友だちと一緒にだと楽しい」、そんな一つひとつの気持ちに出会うことも、キャンプの大切な体験だと考えています。

キャンプ初日、千葉駅と流山おおたかの森駅からバスに乗り込み、「ほしふる 5Days Camp」がスタートしました。バスの中は、毎年少し独特な空気があります。久しぶりに会う友だちやリーダーとの再会を喜ぶ子もいれば、初めてのキャンプに少し緊張した表情を見せる子もいます。まずは自己紹介やレクリエーション、キャンプソングなどを楽しみながら過ごしました。この時間は単なる移動ではなく、これから5日間を一緒に過ごす仲間との関係をつくる最初の時間です。くまの木に近づく頃には、車内にも笑い声が増えていきました。到着後は昼食を食べ、くまの木周辺の散歩へ出発。田畑の広がる道を歩きながら、これから5日間を過ごす場所を自分たちの足と目で確かめていきます。その後は、キャンプ恒例の「木のペンダント作り」。5日間名札として身につける木の板に、自分の名前や好きな絵を描いていきました。同じ材料を使っている、出来上がるペンダントは一つとして同じものはありません。それぞれの個性が表れた、世界に一つだけの名札が完成しました。そして、ここからは「自由時間」です。校庭を走り回る子、虫を探す子、部屋で遊ぶ子、友だちと話をする子。リーダーが「次はこれをします」と決めなくても、子どもたちは自分たちで次々と遊びを生み出していきます。これはほしふるキャンプが大切にしている時間のひとつです。夜はみんなで「ナイトハイク」をしました。昼間とはまったく違う表情を見せる、夜のくまの木。懐中電灯を手に、暗闇の中をグループの仲間と歩いていきます。虫の声、風の音、足元から聞こえる草や砂利の音。時々急に現れるリーダーたちに驚きながら、夜のくまの木を探検していきました。普段の生活ではなかなか味わうことのできない「本当の暗さ」の中で、自然と隣にいる仲間の存在が大きく感じられます。こうして、ほしふるキャンプ最初の夜は過ぎていきました。



2日目は、翌日に行う「ほしふる夏祭り」の準備から始まりました。毎年恒例となっているほしふる夏祭りは、用意されたお祭りに子どもたちが参加するものではありません。子どもたち自身がお店を考え、準備し、当日はお店屋さんにもなる「自分たちでつくる夏祭り」です。「どうしたら楽しくなるかな?」「ここに看板をつけよう!」「こういうルールにしたら?」、仲間とアイデアを出し合いながら、少しずつお祭りの形が出来上がっていきました。昼食は、みんなが楽しみにしていた「BBQ」です。高学年グループのお友だちが火起こしから準備、焼き係に片付けまでを担当してくれます。炭火を囲みながら食べる食事は、それだけでいつもの昼食とは少し違った特別な時間になります。お肉や野菜を食べながら、それぞれのテーブルから楽しそうな声が聞こえてきました。午後は夏祭りで身につける「お面作り」です。ペンや絵の具を使いながら、それぞれ思い思いのお面に仕上げていきます。じっくり時間をかける子、大胆に色を塗っていく子など、ここでも一人ひとりの個性が表れていました。もちろん、この日も自由時間はたっぷりあります。5日間を共に過ごす中で、初日にはまだリーダーを中心に遊んでいたグループも、少しずつ子ども同士で誘い合ったり、新しい遊びを始めたりする姿が増えていきました。夜は体育館で「全体レクリエーションタイム」をしました。年齢もグループも関係なく、みんなで笑って、声を出して、思い切り遊ぶ時間です。キャンプには、一人でじっくり何かに取り組む時間、グループで過ごす時間、そしてキャンパー



全員がひとつになる時間があります。それぞれ違った時間があるからこそ、5日間の中で様々な人との関係が広がっていきます。

3日目は「東荒川」での川遊びからスタートです。ライフジャケットを身につけ、くまの木から15分ほど歩いて川へ向かいました。暑い中を歩いて到着した先に待っているのは、驚くほど冷たい川の水。最初は「冷たい！」と足だけを入れていた子どもたちも、時間が経つにつれて少しずつ大胆になっていきます。水を掛け合ったり、流れに身を任せたり、全身びしょ濡れになったり。自然の川だからこそ、毎年水量も流れも水温も違います。その日の自然の状態に合わせて遊び方を考えることも、自然体験の面白さのひとつです。くまの木に戻って休憩した後は、いよいよ「ほしふる夏祭り」。前日から自分たちで準備してきたお店をオープンします。子どもたちからのリクエストソングがBGMとして流れ、浴衣や甚平、お手製のお面を身につけた子どもたちが行き交います。そして「ほしふる夏祭り」は自分たちでつくる夏祭りです。お客さんとして楽しむだけではなく、お店屋さんになれば、今度は自分たちが誰かを楽しませる側です。「いらっしゃいませ！」「こっち空いてるよ！」「もう一回やっていいよ！」そんな声がかまの木のあちこちから聞こえてきました。そして夏祭りの後は、毎年子どもたちが楽しみにしている恒例の「夏祭りスペシャルディナー」です。いつもの食堂での夕食とは違う、ウッドデッキで食べるこの日だけの特別な食事です。自分たちでつくった夏祭りを思い切り楽しんだ後に、仲間と食べる夕食。子どもたちの表情からも、特別な一日を過ごしていることが伝わってきました。その後は校庭で「花火」の時間です。手持ち花火の小さな光が校庭のあちらこちらに広がる時間となりました。川遊びから始まり、夏祭り、スペシャルディナー、そして花火。朝から夜までまさに「くまの木の夏、ほしふるの夏」を満喫した一日となりました。



4日目を迎える頃には、キャンプが始まったときとは子どもたちの様子も大きく変わっています。生活にも慣れ、友だちとの関係も深まり、「次は何する？」と自然に声を掛け合う姿が増えていました。この日の午前中は午後に行う「スタンプ大会」に向けた準備をしました。スタンプ大会はいわゆる即興劇です。グループ毎に「テーマとお題」を決めて、ストーリーや配役などを自分たちで決めていきます。最初から全員の意見が一致するとは限らないので、午前中はあっという間に過ぎていきました。「自分はこれをやりたい」「こっちの方が面白いと思う」「それはちょっと恥ずかしい」、一人ひとり違う考えを持った仲間とひとつの物をつくる為には、相手の話を聞いたり、自分の考えを伝えたり、時には譲ったりすることも必要になります。スタンプは完成した劇を見る楽しみもありますが、そこに至るまでの時間そのものが一番大切になる活動です。4日目の昼食は、「流しそうめん」をやりました。これは当初から計画していたプログラムではなく、子どもたちのリクエストから生まれたプログラムです。ほしふるキャンプは「この活動を通じて、こういう想いを感じて欲しい・体験して欲しい」という私たちの願いだけでなく、「子どもたちのやってみた！」を実現する場所でもあります。毎年参加をしてくれている子どもたちから



のリクエストで実現をしたプログラムは大盛り上がりでした。そして午後はいよいよ「スタンツ大会」です。この時間のためにグループで考え、練習してきたものを、みんなの前で発表します。笑いが起きたり、大きな拍手が起きたり、仲間を応援する声が聞こえたり。もちろん上手に発表することだけが目的ではありません。仲間と一緒に考え、創り、そしてみんなの前に立つ。その経験すべてが、子どもたちにとって大切な“体験”になります。そして夜のプログラムは「キャンドルファイヤー」です。この時間は、ただ出来事を振り返るだけではありません。子どもたちから、このキャンプで感じたことや心に残ったことを話してもらい、リーダーたちからも、子どもたちと過ごす中で感じたことや伝えたい想いを言葉にしていきました。楽しかったこと、頑張ったこと、悔しかったこと、友だちと過ごしたこと、リーダーとの時間。それぞれが胸の中に抱えていた想いを、言葉として伝えていきます。そしてみんなで歌うキャンプソング。この時間に歌うキャンプソングはそれぞれの“想い”が言葉に込められた特別な歌に聞こえてきます。キャンプソングを歌いながら涙を流すリーダーたちに加えて、今年は半分以上の子どもたちが涙を流して歌っている姿がとても印象的でした。4日間、一緒に遊び、笑い、時にはケンカをしながら過ごしてきたからこそ、伝えたい言葉があり、離れたくないと思える仲間がいる。キャンドルの灯りの中で過ごしたこの時間は、5日間の中でも特に、一人ひとりの心に残る時間になりました。



あっという間に迎えたキャンプ最終日。部屋の掃除や荷物整理を終え、最後のプログラム「鮎のつかみ取り」を行いました。くまの木の校舎裏に用意された特設プールを泳ぐ鮎を、自分たちの手で捕まえます。素早く逃げる鮎を追いかけて、何度も挑戦しながら、ようやく捕まえた瞬間には大きな歓声が上がりました。しかし、ほしふるキャンプで実施するこの活動は「魚を捕まえて楽しかった」では終わりません。ここから毎年恒例の「串打ち」に挑戦をします。ここで捕まえた鮎は、自分たちで串に刺し、焼いていただきます。少し前まで自分の手の中で動いていた鮎。普段の食事では、食べ物がどこから来て、どのように自分たちの前に並んでいるのかを意識する機会は多くありませんが、「いただきます」という言葉の向こう側には、生き物の命があります。少し難しく、串を打つことに戸惑う子もいますが、自然の中で過ごすキャンプだからこそ、子どもたちに触れてほしい大切なことのひとつだと考えてほしふるキャンプでは毎年実施しています。最後は焼き上がった鮎をみんなで美味しくいただき、ほしふる 5Days Camp のすべてのプログラムが終了しました。



今年のほしふるキャンプは、これまでより1日長い「4泊5日」で開催しました。1日増えたことで、特別なプログラムを多くできたこと以上に、私たちが大きく感じたことがあります。それは、「子どもたちの時間が増えた」ということです。

～予定されたプログラムとプログラムの間にある時間。食事が終わって友だちと話している時間。校庭で何となく始まった遊び。部屋でくだらないことで笑っている時間。虫を見つけて夢中になっている時間。リーダーやお友だちとゆっくり話している時間～

報告書には残らないような、そんな時間の中にもキャンプの大切な体験はたくさんあります。「自由時間」は「何もしていない時間」ではありません。

何をするかを自分で決め、誰と遊ぶかを自分で選び、うまくいかなければ考え直す。時には一人で過ごすことも含めて、子どもたち自身が自分の時間を創っていきます。大人が用意したプログラムの中だけでは見えなかったその子らしさが、そんな時間にふっと現れることがあります。だからこそ今年の

キャンプに、「**自然の中で自分と出会う5日間**」というサブタイトルをつけました。キャンプで突然、大きく成長するわけではありません。ですが、初めてのことに挑戦してみたこと。自分から友だちを誘えたこと。誰かのために動けたこと。失敗して悔しかったこと。思い切り笑ったこと。自分の「好き」を見つけたこと。そんな小さな経験の積み重ねが、その子自身を少しずつ

作っていくのだと思います。そして「ほしふるキャンプ」には、もうひとつ大切にしているものがあります。それは、「また帰ってきたくなるキャンプであること」です。「来年は何する?」「来年もこのグループがいい!」「またここに来たい!」キャンプが終わる前から、そんな「次」の話をしている子どもたちの姿がありました。毎年同じ場所で会う友だちやリーダー。変わらない木造校舎。美味しい食事。東荒川の冷たい水。くまの木スタッフの皆さん。そして、**毎年少しずつ変わっていく自分**。同じ場所に帰ってくるからこそ、自分自身の変化や成長に気付くことができるのかもしれません。2021年に始まった「ほしふるキャンプ」ですが、私たちが当時から大切にしてきた、「**子どもたちの成長は待ってくれない。子ども時代の今だからこそ、体験できること、感じることもある**」という想いは、今も変わっていません。5日間という時間を共に過ごした仲間やリーダーとの思い出、自然の中で感じたこと、そしてそこで出会った「自分自身」を、それぞれの日常へ少しだけ持ち帰ってもらえたら嬉しく思います。

また来年、星ふる学校くまの木で会えることを楽しみにしています。

「ほしふる 5Days Camp」にご参加いただき、ありがとうございました。

キャンプディレクター 小林 和弘（かずっち）



2026 年度冬季プログラムのご案内

◆スキーキャンプ

日 程：12月27日（日）～12月30日（水）

宿泊場所：ホテル玉城屋

ゲレンデ：丸沼高原スキー場 / スノーパーク尾瀬戸倉

対 象：小学1年生～高校3年生

参 加 費：83,000～89,000 円前後の予定

移 動：大型バス

※別途でレンタル代、リフト代が掛かります。



◆大房岬ウインターキャンプ

日 程：1月9日（土）～1月11日（月・祝）

宿泊場所：南房総市大房岬自然の家

対 象：小学1年生～中学3年生

参加費：38,000～45,000 円

移 動：公共交通機関

この冬は、12月に群馬県の尾瀬での「スキーキャンプ」、1月に南房総市の大房岬での「ウインターキャンプ」を予定しています。

スキーキャンプでは、初心者から経験者まで、それぞれのレベルに合わせたグループに分かれて活動します。初めてスキーに挑戦するお友だちは、スキー板の履き方や雪の上での歩き方など、基本から少しずつ練習します。経験のあるお友だちは、これまでの経験を生かしながら、さらに上達することを目指します。ボランティアリーダーや仲間と一緒に、尾瀬の雪景色を楽しみながら、思いきりスキーを満喫しましょう！

1月のウインターキャンプでは、南房総市の豊かな自然の中で、仲間と協力しながらさまざまな活動に挑戦します。グループでの生活や自然体験を通して、新しい仲間との出会いや、宿泊キャンプならではの思い出をつくりましょう！

寒い冬だからこそ体験できる活動がいっぱいです。ボランティアリーダーたちと一緒に、心も体も温まる楽しい冬を過ごしましょう！

※今年度は2月のスキーキャンプの実施はございません。



千葉YMCA 千葉センター

〒260-0015

千葉県千葉市中央区富士見 2-5-15

塚本第三ビル 7 F

Tel043-222-3811 Fax043-222-5061